

## 「まちっ子の森」にいらしゃい！～再生の森で六甲山に親しもう～

堂馬 英二（六甲山を活用する会）

### 1. 月例の「まちっ子の森デー」を定着する

六甲山記念碑台周辺で「まちっ子の森」を実現し、「六甲山頂・森と歴史の散歩道」を整備して山麓市民の自然体験や散策に活用している。「まちっ子の森」は国立公園内の雑木林を環境学習林として整備したもので、子どもたちが自由に安心して活動できる希少な環境である

昨年からは、毎月第3日曜日を「まちっ子の森デー」として、一般市民の利用を促進している。定例の四季の環境学習プログラムの運営、幼児家族やシニア世代向けの「家族でぶらっと六甲散歩」のツアー、さらに森づくりの見学会・体験会を併催している。また、これらの運営を支えるボランティアも募集しており、月例の環境整備活動も実施している。市街地から約30分で上がれる交通至便な環境を、市民に開放して気軽に活用してもらうことを願って、少数のスタッフでも効果的に運営することを目指している。

催し毎の広報は非常に集客効率が悪くなっているため、第3日曜日に「まちっ子の森」に行けば、いろいろ体験できるという評判が広がってリピーターが来訪するのを期待している。



2018冬のパークレンジャー



新緑の森で昼食を楽しむ

### 2. 「アセビ伐採による森の再生」を追跡調査する

「まちっ子の森」は、落葉広葉樹の森に再生することを目指して、密生したアセビとササを伐採して、森の変化を10年近く追跡調査している。総面積1.2haの雑木林に調査区を4区画設定（1.700㎡）して、アセビを約500本伐採して調査した。アセビ伐採後も追跡調査として、環境測定、毎木調査、実生新芽生育調査、飛来種子調査、アセビ切り株の萌芽枝調査などを継続実施している。「アセビのみを伐採することによって森はどのように変化するか」を素人ながら、地道に調査している。調査データは「六甲山環境整備協議会」で報告して助言も受けている。六甲山をはじめ、森の整備の参考資料として役立てたいと考えている。

昨年12月から、「まちっ子の森」に隣接する雑木林一帯で、アセビを主にした伐採整備が行われている。伐採地は驚くほど眺望が良くなって、景観が大きく変化している。10年以上前から、過密なアセビの伐採を提起してきたが、その声が届いているように思われる。

神戸市が主導している六甲山の森林整備戦略では、明治以来100年の植林から、必要に応じて伐採するという方向に転換している。六甲山のあちらこちらで、防災や眺望改善のために雑木林の伐採が始まっている。



アセビ伐り株の萌芽枝調査



眺望が広がった伐採地

### 3. 「六甲山ライブラリー」の設置を提案する

当会が設立以来、「六甲山魅力再発見市民セミナー」を開催し、六甲山にちなむ多様な話題をまとめてきた。15年目の132回で「市民セミナー」をいったん終了して、各回の報告書を再編集して刊行した『六甲山物語』1～5巻を、六甲山を広く深く知るための情報として広める方向に転換している。このたび、「ひょうご県政150周年記念県民連携事業」に助成金が認定されることになり、『六甲山物語』1～5巻を図書館などに寄贈して、郷土資料の中に「六甲山ライブラリー」を設置し、もしくは充実することを提案しようとしている。多くの講師や参加者、関係者と一緒に蓄積してきた産物を一般市民に公開して、六甲山についての理解を高め地域の貴重な資源を活用してもらおうという、本来的な課題にじっくり取り組もうとしている。

先述した「まちっ子の森」の創出も同様で、「魅力再発見」の産物を広く普及することに注力していきたい。



『六甲山物語』1～5巻

以上

ひとはく第11回共生のひろば（2017年2月11日） 展示の要旨  
本文1,384字